

農大 NOW

令和5年度版

令和6年3月13日発行

大分県立農業大学校

〒879-7111 大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-1

TEL : 0974-22-7581 FAX : 0974-22-6387

E-mail : a15230@pref.oita.lg.jp

ホームページ : <http://www.pref.oita.jp/site/140/>



Instagram



Facebook



育む

～ 実り豊かな「農」と「人」～

農にはばたく ～熱い思いと希望を胸に～

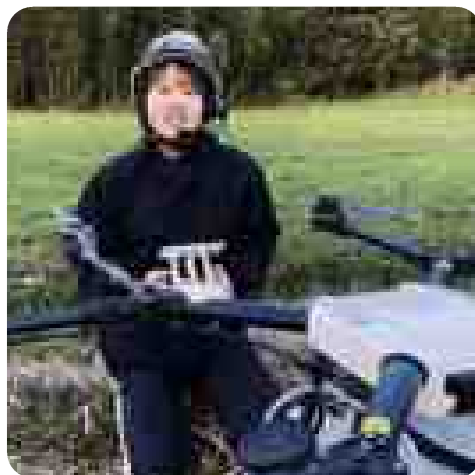
今を駆け抜ける

なかの まきの 中野 真希 (総合農産科 水田・野菜コース 水田・露地野菜クラス)

私は父の影響で農業に興味を持ち、実家の農業を継ぐために大分県立農業大学校に入学しました。普通科高校出身だったため、日々の講義や実習は覚えることが多く、苦勞することも多々ありました。しかし、何事にも真剣に取り組んでいくうちに、徐々にできることが増え、プロジェクト研究では、スマート農業であるドローンを使った新しい課題に挑戦し、ドローンの操作方法や画像解析技術を身につけることができました。それに加えて、学生初の大型ドローンの免許も取得し、ドローンの知識や技術の幅がさらに広がりました。将来自営を目指す私にとっては、この経験はとても大きく、また一步、自分の目標に近づけたと強く実感しています。

そして、この2年間は、農業以外にも大好きな陸上にもう一度力を入れ、陸上部の先生方のおかげで努力をつづけながらも楽しく充実した毎日過ごすことができました。

たくさんの思い出ができたこの2年間に大切に、将来は立派な農業経営者になれるよう、これからも努力していきます。



チャレンジにあふれた学生生活

ごとう はじめ 後藤 一 (総合農産科 水田・野菜コース 野菜クラス)



私は将来的に農業をやりたいと考えています。農業高校で出来なかったことも含め、多くのことにチャレンジできると期待して、農大に入りました。

学校の授業で印象に残ったことは、スマート農業の実習です。自動運転のトラクターに実際に乗って、自動で動いているのを体験し驚きました。大型特殊やけん引免許、フォークリフトなど、取得できる資格が高校の時よりも多く、将来に活かせると思っています。

プロジェクト研究はイチゴ「ベリーツ」を選択しました。高校ではイチゴを栽培したことがなく初めての経験でした。高校の実習と比べて、自分ですべて育苗から畝立て、定植、収穫などの栽培管理を行うため、大変な所はありましたが、無事に最後の収穫まで出来た時には達成感が得られました。また、自分のプロジェクトの他にも、ミニトマトやキュウリ、ピーマン等の野菜栽培も経験することができました。

卒業後は進学を予定しており、さらなる技術や社会経験を身につけた後で家業を継いで経営者として一人前になれるよう頑張ります。

大好きな花に囲まれた2年間

あしだ もえ 芦田 萌 (総合農産科 花きコース)

私は幼い頃から花が好きでしたが、農業大学校で花を専門的に学ぶことにより、さらにその魅力を感じることができました。また、フラワー装飾技能士の資格を取得するなど、技術や知識を身につけることもできました。

プロジェクト研究では、一番好きな花であるスイートピーを供試品目を選び、研究に励みました。スイートピーは優しい印象が持たれ、花束やアレンジメントでも人気がありますが、栽培はどの花よりも手間がかかると言われています。つる下ろしや巻きひげ取りなど、終わりが見えない作業は大変でしたが、販売店に持ち込むと同時に、花束を手取るお客様を見て、達成感を覚えることができました。また、試験区から収穫した花を使用して出展したフラワーアレンジメントコンテストで、大分県知事賞に選ばれた時は本当にうれしかったです。

卒業後は、生花店に勤務します。生産者が愛情込めて育て上げた花を、最も美しい姿でお客様にお届けできるよう、常に花たちと向き合い、責任感を持って業務に励みます。



充実したプロジェクト研究

おおた ひろき
大田 海輝 (総合農産科 花きコース)

私の実家はホオズキやカスミソウ、スターチスの栽培をしています。幼い頃から収穫や出荷調整に携わってききましたが、さらに学びを深めたいと思い、農業大学校に進学しました。

農大では、大型特殊やけん引免許、車両系建設機械、フォークリフトなど多くの資格の取得に励みました。またプロジェクト研究では、「ハボタンの色戻り対策による出荷時期の検証」をテーマに、日々の栽培管理から観察、データ分析を行ってきました。肥効期間の異なる肥料を用いることにより、色戻りを緩和させるという成果が得られました。これにより、先輩方が技術開発した染色ハボタン「プリンセス・リーフ」の安定した長期出荷の可能性が高まったと感じています。気温や個体の状態により、染色が一定にならないことなど、まだまだ課題はありますが、後輩たちには今後も研究を深めて欲しいです。

私は、農大卒業後は農業法人に就職します。農大で学んだことを生かしながらさらに経験を重ね、いずれは経営者として、大分県の農業の発展に貢献したいと考えています。



あの壁を超えろ!

いいだ のりひと
飯田 雄仁 (総合農産科 果樹コース)



私の実家は、大分県日田市天瀬町で祖父母の代から38年間続くブドウ専業農家です。現在は両親が1.5haのブドウ園を営んでいます。父親は本校の卒業生であり、私もブドウ栽培を学びたくて入学しました。

在学中に初めて年間を通してシャインマスカットの栽培を経験できました。先生たちの指導のもとブドウだけではなく多くの果樹生産技術を習得でき、今後の経営に生かしていきたいです。父の背中を追って本校に入学しプロジェクト研究に挑戦したことによって、ブドウを愛する多くの仲間に出会うことができました。

私は本校を卒業後、1年間山梨県の植原葡萄研究所で研修を行うことにしています。全国のブドウ生産者と交流を深めながら様々な技術を磨き、将来実家のブドウ栽培を継承する準備を進めていきたいです。そして私が就農したら家族で力を合わせて、天瀬を代表するブドウ経営者に成長してみせます。

多くの免許を取得し、畜産の知識・技術を得た充実した2年間 小野 隼也 (総合畜産科)

私の実家では、私が産まれるよりも前から祖父が牛を飼育しており、物心ついた頃には、家畜市場や牛の品評会に連れて行ってもらう、そこで牛を見たり触れたりしていました。その後、父が牛飼いを継ぐことになりましたが、最初は慣れておらず苦労していたため、私も牛の世話の手伝いをするが多くなりました。私が中学生の頃になると、子牛市場の価格が上昇して、家で生まれた子牛が高値で売れるようになり、この頃から将来は農業大学校に進学し、卒業後は家業を継いで牛飼いをすることを決意しました。

農大の2年間の学生生活では、牛の栄養学・飼養管理・繁殖学、作物の栽培技術及び経営学などを学び、また大型特殊免許やけん引免許、家畜人工授精師や家畜商の資格を取得しました。

総合畜産科をはじめ農大の先生方には大変お世話になりました。農大に来て良かったと心から思います！2年間本当にありがとうございました！



今年1年を振り返って



学生会長 かわの 河野 そうた 颯太

学生会役員の皆さんと学生の皆さんのおかげにより、無事、令和5年度学生会の役を終えることができました。職員の皆様を含め、すべての関係者の方々に感謝申し上げます。

今年度は、新型コロナウイルスの影響も落ち着き、やっと普段どおりの生活を送ることができるようになりました。5月に長崎で行われた北部九州地区スポーツ交歓大会や、9月に熊本で行われた九州地区農大親善体育大会に参加することができました。11月の農大祭では、今年度から、キッチンカーだけではなく実際に農大で収穫した野菜を使用した豚汁、カレーライス、焼き芋、シャインマスカット飴の販売を行いました。どの商品も完売するほど好評でした。

今年度の学生会活動は、昨年までできなかった行事を行うことができましたが、まだ復活できなかった行事もあります。来年度の学生会では、私たちが実現することができなかった行事を復活して、より楽しい学校生活を送ってほしいと思います。

最後に、私たちが貴重な学校生活を送れたのは、先生方、後援会をはじめとした保護者の皆様のご指導や励まし、そしてお世話になった農家の方や地域の方々の温かいご支援があったからです。心から感謝いたします。

今後は、本県の農業を担う一員として、大分県立農業大学のさらなる発展を願うとともに、後輩たちの頑張りを支えていく人間になれるよう邁進してまいります。皆様には、引き続き本校及び農大生へのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



～農大の一年 充実した学園生活～



令和5年度 農大生の活躍

学生フラワーデザインコンテスト

「第15回 めじろんカップ」大分県知事賞(総合第1位)獲得!!

日本フラワーデザイナー協会主催「第15回めじろんカップ(フラワーアレンジメントコンテスト)」が開催され、本校から総合農産科花きコース1年生の2名が出展しました。

このコンテストは、花器に構成する作品の70%以上を生花で彩り、自由な形体で植生的・装飾的な作品を製作するものです。今年のテーマ「芽吹き」をイメージして、使用する生花から構成までを考え、製作に取り組みました。

「春からの挨拶」をサブテーマに掲げて、アネモネ・スイートピー等を使って表現した藤内悠翔さんが、全体の1位となる大分県知事賞を受賞しました。また2位となる日本フラワーデザイナー協会理事長賞を尾籠藍さんが受賞しました。



県知事賞を受賞した藤内悠翔さん(左)と、理事長賞を受賞した尾籠藍さん(右)



受賞作品

～様々な企業・学校との連携～

○株式会社大分からあげ

(株)大分からあげが取り組んでいる米油プロジェクトの一環として、農業大学校内の水田を使って、水稻栽培を行いました。米油を絞った後の脱脂米ぬかが主体の肥料を使用し、学生のプロジェクト研究として栽培試験を実施。播種から代かき、田植え、除草、収穫までの一連の作業を社員の方も体験し、秋の収穫を迎えました。引き続き栽培試験を行いながら、地元の生産者と連携の輪を拡げ、地域資源循環型農業に取り組んでいきます。



○(独立行政法人)大分工業高等専門学校・株式会社タカフジ

九州や四国地方で在来のとうもろこしとして栽培され、幻のとうもろこしと呼ばれている「もちとうきび」の商業的な生産を目指した取り組みを、大分高専、株式会社タカフジと連携して行っています。



農業大学校では、栽培方法が確立していない在来品種「もちとうきび」の栽培マニュアル作成に向けた栽培試験を行い、試食イベントでのアンケート調査などを通じて、「もちとうきび」をPRしました。伝統ある貴重な地域資源に新たな付加価値の創出を目指しています。

○大塚製薬株式会社

食育活動の一環で大塚製薬(株)と協力し、消費者を招いて農業大学校で栽培した黒大豆クロダマルの収穫体験を行いました。



2年間の集大成 ～プロジェクト・意見発表会～

各学科・コース代表12名の学生がプロジェクト学習の成果や日頃の想いについて発表する、校内プロジェクト・意見発表会を令和5年12月14日にエイトピアおおので開催。審査の結果、プロジェクトの部は総合畜産科2年の徳久紬希さんと総合農産科果樹コース2年の飯田雄仁さん、意見発表の部は総合畜産科1年の衛藤正和さんが本校代表に選出されました。



意見発表学生



プロジェクト発表学生

九州大会における最優秀賞受賞は8年ぶり2回目の快挙

九州地区農業大学校プロジェクト・意見発表会が令和6年1月17～18日に佐賀県で開催され、本校から3名が発表。審査の結果、飯田雄仁さんが見事に最優秀賞を受賞し、九州・沖縄ブロック代表に選出されました。



意見発表する衛藤正和さん



プロジェクト発表する徳久紬希さん

本校から3年ぶり10回目の全国大会出場

全国農業大学校等プロジェクト・意見発表会が令和6年2月7～9日に東京都で開催され、本校からプロジェクトの部で発表した飯田雄仁さんが、優良賞を受賞。久々の全国大会で、ブドウ研究の成果を堂々と披露できました。



プロジェクト発表する飯田雄仁さん



全国大会参加学生

活躍する卒業生・期待される農大生

技術は盗んだもん勝ち！

平成25年度卒業生 小松 親広

私は現在30歳、本校を卒業して10年になります。卒業後は農業法人に勤めていましたが、結婚を機に実家のある日田市の梨農園を継承して5年が経過しました。

本校在学中は果樹コースで主に落葉果樹の技術を学びました。その中でも従来の方法と異なる「流線型仕立による梨の早期成園化技術」に興味を持ちプロジェクト研究に取り組みました。そのおかげで現在この技術を活用した梨栽培を続けています。通常ならば成園化には約10年かかりますが、流線型仕立にすると3～4年で収穫開始できるし、格段に作業効率がよくなりました。

このように農大では最新の農業技術を身につけられると同時に、寮生活を通じて苦楽を共にした仲間たちとの交流が生まれ、今の自分に繋がっていると感じています。卒業した同級生や先輩、後輩と共に大分県の農業を盛り上げていけたら嬉しい限りです。



農大での出会いを大切に

令和2年度卒業生 阿南 里於



私は、現在、豊後大野市三重町で米と麦を栽培する農業法人に就職しています。高校は農業科でさらなる農業知識を得たく、農大へ進学し、3年前に卒業しました。

農大では、水田・露地野菜クラスに在籍し、大豆のプロジェクトをしました。

実習の米作りは初めての経験で何も分からないし、周りの学生は米作りを家でしている人もいて、すごくおいてけぼりにされているなど感じ、講義などで自分の知識の中に入れこんでやろうと必死でした(笑)

決して、学生時代は真面目な学生ではありませんでしたが、農大で勉強をする時間があって本当によかったと感じています。

農大に入学して、農業青年連絡協会という組織を知り在学中から所属し、現在役員をしています。協会には卒業生も多く、私にとってコミュニティの一部となっており、今後も多くの卒業生が入ってくれることを願っています。

2年間という短い学生生活は学ぶことが沢山です！絶対今後役立ちます。そして、2年間で出会った同級生、先輩・後輩、先生、農家さんは今後も大事な存在になります。私は、これからも農大で出会った方々を大事にして、知識を自分のものにして、一人前の農業者になります！なって農大に誇れる人材になります！

農産物直売所 「みどりの風」

今年度も学生が丹精込めて生産した米、野菜、果物、花、加工品などを校内や豊後大野市役所、豊肥管内の県庁舎及び県庁本館などで販売を行ってきました。また、県農林水産祭やOABマルシェなど各種イベントへも参加し、多くの消費者とふれ合い、様々なご意見をうかがうことができました。



一路平安

校長 竹中 和男

大分県立農業大学校第32期卒業生の皆さん、新たな道に進まれる門出を心からお祝い申し上げます。

また、保護者等ご家族の皆様にもお喜び申し上げます。

卒業される皆さんは、在学中の講義や実習により多くのことを学び、経験をしました。全寮制の生活は多くの仲間をつくり、友情を深めました。

これからは、それぞれ自らが決めた路を歩んで行くことになります。様々な困難に直面すると思いますが、本校でのたくさんの経験を礎に、次なるステージでも頑張ってください。

母校農大は皆さんのことをこれまでこれからも応援していきます。

私たち 郷土に生きる

自らの選択

卒業生の進む道

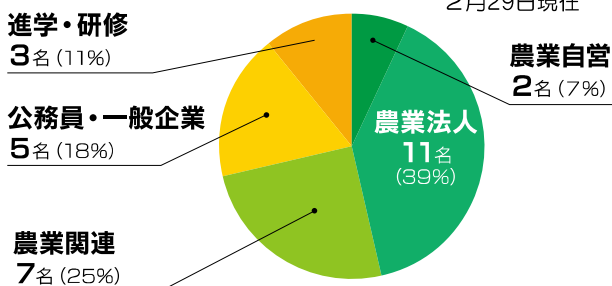
(令和6年2月29日現在)

農学部第32期卒業生の進路状況は下のグラフのとおりです。卒業後、即自営を行う者、農業法人や農業関係団体に就職する者の割合が約71%となっています。

また、各種資格取得や免許に関する学習を全学生対象に実施していますが、多くの学生が資格や免許を取得しています。取得状況は右表のとおりです。

令和5年度 卒業生28名の進路状況

2月29日現在



卒業生の資格・免許取得状況(1・2年次通算)	取得者数
大型特殊免許(農耕車限定)	27
けん引免許(農耕車限定)	24
小型車輛系建設機械運転特別教育	4
車輛系建設機械(整地等)運転技能講習	14
フォークリフト運転技能講習	15
ボイラー取扱技能講習	6
ガス溶接技能講習	5
アーク溶接作業特別教育	11
日本農業技術検定2級	2
日本農業技術検定3級	4
家畜商講習修了証	3
家畜人工授精師免許	5
フラワー装飾技能検定3級	4
農薬指導士認定	5

卒業後の進路 (直近3年間、順不同)

農業法人等 自営就農、農事組合法人中園営農組合、有限会社福田農園、株式会社創、JR九州ファーム株式会社、有限会社フラワーうさ、小川香料株式会社、株式会社らいむ工房、名水美人ファクトリー株式会社、農事組合法人グリーンアース、合同会社大塔農産、中津もぎたてファクトリー、大分佐伯ファーム株式会社、有限会社長谷雄牧場、トゥルーバファーム株式会社、株式会社真玉キャトルファーム、株式会社よこやま大動物病院、有限会社釘宮牧場、株式会社スギモトファーム、やりみず農園、農事組合法人カヤノ農産、株式会社おおやま夢工房、コルディアール大分農場、株式会社リアライズ、株式会社イー・ワン、株式会社アグリハート、有限会社豊後大分有機茶生産組合、FROGSFARM 株式会社、株式会社未来農林、株式会社石和田産業、有限会社鈴木養鶏場、株式会社ドリームファーマーズ JAPAN、株式会社大分サンヨーフーズ、株式会社黒木ファーム、株式会社豊後大野クラスター、農事組合法人水江ライスセンター、株式会社まるみつファーム、草屋本舗株式会社、株式会社 ENOWA ファーム

農業団体等 大分県農業協同組合、株式会社大分県畜産公社、公益社団法人農業公社やまくに

農業関連企業 株式会社中九州クボタ、ヤンマーアグリジャパン株式会社、株式会社キセキ九州、大三ミート産業株式会社、丸果大分大同青果株式会社

進学 東海大学、愛媛大学、大分高等技術専門学校、タキイ研究農場専門学校、豊後高田市アグリチャレンジスクール、海外農業研修、植原葡萄研究所

公務員 大分県技能職員

一般企業等 株式会社野田麗花園、株式会社ヤマナミ麺芸社、株式会社コスモス薬品、株式会社トキハインダストリー



就職相談会(会社概要説明)

編集後記

「農大NOW」は平成6年3月に第1号が発行され、今回の令和5年度版が第31号となります。名前となっている「NOW」ですが、これはN:のびる、O:おもしろい、W:わかりやすい農業教育を実践する本校の今(NOW)を伝えていこうという意味が込められています。

令和5年度は、新型コロナウイルスの取り扱いが5類に格下げされるなど、各種の活動が発生前に戻りつつある年となりました。わずか2年間の学校生活の中ですが、学生の成長を感じられる発行内容となっていれば幸いです。卒業後の皆様のご活躍を期待しています。